

コンピューター解析による 大阪府下高校生の意識調査 I

— 1957～1990年間の経年変化と回帰方程式 —

沢 勲 Isao SAWA

荒 田 祥 嗣 Syouji ARATA

*The Computer Processing of a Survey on Consciousness Data
of High School Students in Osaka Prefecture I*

— *The Annual Shift and Regressive Equation from 1957 to 1990* —

ABSTRACT

The Research Section of Social Studies in High Schools of Osaka Prefecture took the data of high school students' consciousness four times between 1957 and 1990. The questions varied in 5 fields : individual relations ; family relations ; social relations ; national relations and international relations. On each item, we asked students whether they thought it to be a good deed or a bad one. In result, all in the 25 items the average consciousness point for boys is 5.11 and the one for girls is 5.01; and the one for students is 5.06, where the standard deviation and variance points in student are 2.50 and 6.36. Furthermore, the maximum and minimum of the average points are respectively 8.98 and 1.64, where there is a margine of 7.34 in points.

According to the average regressive equation between boys and girls, the girls' points is 15% higher than the boys' one. That is to say, it can be shown as follows : (girls' points = $-0.87 + 1.15$ boys' points). The boys' consciousness in the latter researches is lower by 1 point, while the girls' one is 1% lower in a gradual slope. The maximum points in the research items is lower year by year, but, on the other hand, the minimum point tends to be higher than in its former research. To be brief, all the tendency is heading for not the extreme best or worst deeds but the moderate range.

[*The Review of Osaka University of Economics and Law*, 61(1995), p.23-61]

1 はじめに

大阪府高等学校社会科学研究会（略称：府社研）は、大阪府下の国立・府立・大阪市立・衛星都市立・私立・定時制・通信制・養護学校のすべての学校で社会科教育にたずさわる教育関係者の組織（会員数3,500名：会員校数323校）である。府社研の社会部会理事会（以下部会という）では、1967年に現代高校生の実態を科学的に把握するための具体案を検討中であったが、1957年に大阪大学心理学教室（天野利武、田中正吾および中西信男の三教授）が行った高校生の道徳意識に関する調査を再現し、10年間の経年変化を追跡調査することになった。部会では、大阪大学心理学研究室の調査（1957年）をふまえ、1969年に第一回調査を実施、以後、1980年（第二回）および1990年（第三回）の計4回にわたって意識調査を実施した。

第1回目（1957年）は、戦時中に生まれた高校生が調査対象者である。国内ではなべ底の不況が始まり、国際的にはソ連が人工衛星打ち上げに成功した年である。このような環境の中で、50項目の「高校生の道徳意識調査」が実施された。第2回目（1969年）は、戦後初期に生まれた高校生が調査対象者である。国内では東大紛争やエコノミックアニマルの語が流行し、国際的には米国がアポロ11号を月面に着陸させた。第1回目の追跡調査のため50項目を基本に、新たに、今日的課題を問う10項目を新設し、合計60項目の「高校生の道徳意識調査」を実施した¹⁾。第3回目（1980年）は、国内では新潟水俣病が表面化し、国際的には北ベトナム爆撃開始の時期に生まれた高校生が調査対象者である。国内では校内暴力・家庭内暴力の急増があり、国際的にはイラン・イラク戦争勃発の時期である。第1・2回目の追跡調査のため、前回同様60項目の「高校生の道徳意識調査」を実施した²⁾。第4回目（1990年）は、国内ではロッキード事件やニューファミリーの語が流行し、国際的には南北ベトナムの統一時期に生まれた高校生が調査対象者である。国内では国際花と緑の博覧会が開催され、国際的にはドイツ統一の時期である。第1、2や3回目の追跡調査のため、従来の50項目のうち25項目を残し、1969年新設の10項目を加え、新たに15項目を設定し、合計50項目の「高校生の道徳意識調査」を実施した³⁾。

部会では、約10年おきに意識調査を行いながら、この大阪府下における社会変動とそれともなう高校生の意識変化の推移を継続して研究する計画がある。次回調査の2000年に向けて、本論文は、1957年～1990年間の経年変化をコンピューターにより解析し、その基礎資料を提供するものである。したがって、本論文の要点は、次のように要約できる。

a. 男女生徒間の平均回帰方程式と決定係数 ($R^2=0.97$) は、

「女子（ポイント）＝ $-0.87 + 1.15$ 男子（ポイント）」である。この式により男子生徒よりも女子生徒の方が善いと思われる意識が強いことが確認された。

b. 各年における生徒の回帰方程式と決定係数 (R^2) は、次のとおりである。

最大値（ポイント）＝ $9.530 - 0.01$ 年 …………… ($R^2=0.930$)

平均値（ポイント）＝ $5.420 - 0.00$ 年 …………… ($R^2=0.780$)

最小値（ポイント）＝ $1.000 + 0.01$ 年 …………… ($R^2=0.570$)

標準偏差（ポイント）＝ $4.180 - 0.02$ 年 …………… ($R^2=0.890$)

分散（ポイント）＝ $15.080 - 0.12$ 年 …………… ($R^2=0.870$)

この式により最大値では、善いと思われる意識が、毎年100分の1程度に悪くなる傾向にあり、逆に、最小値では、悪いと思われる意識が、毎年100分の1程度に善くなる傾向である。すなわち、特に、善いことも悪いこともしなくなり、その普通と思われる中間の方向に100年に1ポイントが変動されることが認められた。標準偏差では、50年に1ポイントが漸減されることが確認された。

2 調査方法

2.1 項目の設定

ここでは、過去4回の調査を参考にして、共通した25項目を下記のとおり選択した³⁾。

1. 友人と結んだ約束を守ること
2. 学校の机に傷をつけること
3. 規則正しい生活をするための計画を立てること
4. 何事でも親の言うことは封建的だと思って反抗すること

5. 日本の国を愛すること
6. 税金を少なく納めるために収入を少なく申告すること
7. 親孝行をすること
8. 親類に困っている人があっても助けないこと
9. 世の中が嫌になって自殺すること
10. 代々の祖先をよく祭ること
11. 人類の発展のために世界の国が協力すること
12. 結婚するまで純潔を守ること
13. 世界平和は我々とかけ離れたこととして無関心であること
14. 自分でよいと信じたことは他人の見ていない所でも実行すること
15. 自分は不服であっても多数決で決まったことには従うこと
16. 名誉や地位、財産などを得るために努力すること
17. 天皇を国家の象徴として尊重すること
18. ちょっとした事でも家族みんなで話し合うこと
19. 国家を強くするために強力な軍隊を持つこと
20. 高校生がタバコや酒を飲むこと
21. 保護者に内緒で男女交際をすること
22. 他人を犠牲にしても自分の幸福を求めること
23. 何事でもよく先生に相談すること
24. こみあっている時に人を押しのけて電車に乗ること
25. 兄弟姉妹の中で長男がもっとも大切にされること

この25項目に対して、以下個人・家庭・社会・国家・国際の各グループに分け各項目ごと、それぞれ善いと思われる行為を「以下善い」、悪いと思われる行為を「以下悪」とした。また、本論文では善いとも悪いとも思われない中立化志向を「以下普通」と呼ぶ³⁾。

1. 友人と約束 社会関係（善01）
2. 学校机に傷 ・ ・ ・ ・ ・ 社会関係（悪01）
3. 正生活計画 個人関係（善02）

4. 親には反抗 ・ ・ ・ ・ ・ 家庭関係（悪02）
5. 日本国へ愛 国家関係（善03）
6. 税金を少納 ・ ・ ・ ・ ・ 国家関係（悪03）
7. 親孝行する 家庭関係（善04）
8. 親類助けず ・ ・ ・ ・ ・ 家庭関係（悪04）
9. 世嫌い自殺 ・ ・ ・ ・ ・ 個人関係（悪05）
10. 祖先を祭る 家庭関係（善05）
11. 人類の発展 国家関係（善06）
12. 結婚と純潔 社会関係（善07）
13. 平和無関心 ・ ・ ・ ・ ・ 国際関係（悪06）
14. 良こと実行 個人関係（善08）
15. 多数決に従 社会関係（善09）
16. 誉財に努力 個人関係（善10）
17. 天皇を尊重 国家関係（善11）
18. 家族と話合 家庭関係（善12）
19. 国家の軍隊 ・ ・ ・ ・ ・ 国家関係（悪07）
20. タバコや酒 ・ ・ ・ ・ ・ 個人関係（悪08）
21. 内緒で交際 ・ ・ ・ ・ ・ 社会関係（悪09）
22. 犠牲と幸福 ・ ・ ・ ・ ・ 個人関係（悪10）
23. 先生に相談 社会関係（善13）
24. 押しのけ乗 ・ ・ ・ ・ ・ 社会関係（悪11）
25. 長男が大切 ・ ・ ・ ・ ・ 家庭関係（悪12）

以上のことは、次のようにまとめられる。

個人関係では、善は 3,14,16の 3 項目であり、悪は 9,20,22の 3 項目である。
 家庭関係では、善は 7,10,18の 3 項目であり、悪は 4, 8,25の 3 項目である。
 社会関係では、善は1,12,15,23の 4 項目であり、悪は 2,21,24の 3 項目である。
 国家関係では、善は 5,11,17の 3 項目であり、悪は 6,19の 2 項目である。
 国際関係では、悪は13の 1 項目である。

2.2 調査資料作成

調査資料作成には、25項目に対して悪い行為を（－）とし、善い行為を（＋）としての5段階形式にして光学マーク読み取り装置（OMR）のマーク・シート方式で記入させ、コンピューター処理を行った。本論文では、この5段階形式に5ポイントを加えて11段階のポイント形式に変換したのである。

	悪いと思われる行為					善いと思われる行為					
	-----					+++++					
調査時	- 5	- 4	- 3	- 2	- 1	0	+ 1	+ 2	+ 3	+ 4	+ 5
本論文	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	-----					+++++					

データの解析については、コンピューター処理によって行われた^{4～6)}。データの中で用いられる用語を次のように用いる。平均値はAverage : AVG、標準偏差はStandard Deviation:STDとし各年度から求められた値である。分散はVariance : VARとする。

2.3 調査対象

調査表の回収の内容は、次のとおりである。1957年には、府立高校の6校・市立高校3校・私立高校4校合わせて13校であり、男子2,445名と女子1,366名で、合わせて3,811名である。データの集計は大阪大学心理学教室が行った。1969年には、府立高校の6校・市立高校3校・私立高校4校合わせて13校であり、男子2,233名と女子1,564名で、合わせて3,797名である。データの集計は大阪府高等学校社会科研究会（第1回）が行った¹⁾。1980年には、府立高校の9校・市立高校2校・私立高校4校合わせて15校であり、男子1,951名と女子1,718名で、合わせて3,669名である。データの集計は大阪府高等学校社会科研究会（第2回）が行った²⁾。1990年には、府立高校の13校・市立高校2校・私立高校7校合わせて22校であり、男子1,968名と女子1,891名で、合わせて3,859名

である。データの集計は大阪府高等学校社会科研究会（第3回）が行った³⁾。
各年度における男女のデータは、次のとおりである。

		1957年	1969年	1980年	1990年	合 計
男子	府立	1,327	1,118	1,284	1,349	5,078
	市立	614	526	215	249	1,604
	私立	504	589	452	370	1,915
	小計	2,445	2,233	1,951	1,968	8,597
女子	府立	452	630	1,049	1,236	3,367
	市立	260	304	111	151	826
	私立	654	630	558	504	2,346
	小計	1,366	1,564	1,718	1,891	6,539
合計		3,811	3,797	3,669	3,859	15,136

3 調査結果

3.1 1957年の男女生徒の比較と分類^{1、7、8)}

3.1 α 1957年男子生徒のデータ分析値は、Table 1・2とFig. 1（上段：一線表示）のとおりである。平均値は5.17ポイントであり、普通の意識水準である。標準偏差は2.77ポイント、分散は7.68ポイント、最大値は8.97ポイントおよび最小値は1.57ポイントである。小から大の順に並べ替えると悪い・普通・善いの3グループに分類できる。

悪いと思われる行為	普通と思われる行為	善いと思われる行為
2学校机に傷（1.57社会悪）	25長男が大切（3.19家庭悪）	3正生活計画（8.28個人善）
8親類助けず（1.69家庭悪）	19国家の軍隊（3.82国家悪）	12結婚と純潔（8.38社会善）
22犠牲と幸福（1.82個人悪）	16蓄財に努力（5.87個人善）	7親孝行する（8.65家庭善）
9世嫌い自殺（1.88個人悪）	10祖先を祭る（6.35家庭善）	1友人と約束（8.66社会善）
13平和無関心（1.96国際悪）	17天皇を尊重（6.73国家善）	11人類の発展（8.97国家善）

ここでは、**悪いと思われる行為**に対しては、公共物破損・親戚助けずや自殺

Table 1 The High School Boys' and Girls' Consciousness (points) in Osaka Prefecture in 1957

Code Number	Boys' (B)	Girls' (G)	Average	Difference (B - G)	Rank	Code Number	Boys' (B)	Girls' (G)	Average	Difference (B - G)	Code Number
1	8.66	8.92	8.79	-0.26	1	2	1.57	2	1.23	2	12
2	1.57	1.23	1.40	0.34	2	8	1.69	21	1.23	8	14
3	8.28	8.60	8.44	-0.32	3	22	1.82	8	1.37	22	18
4	2.42	2.12	2.27	0.30	4	9	1.88	22	1.39	13	10
5	8.24	8.35	8.30	-0.11	5	13	1.96	13	1.65	9	17
6	3.18	2.78	2.98	0.40	6	20	2.07	24	1.70	20	7
7	8.65	9.08	8.87	-0.43	7	24	2.37	9	1.76	24	3
8	1.69	1.37	1.53	0.32	8	4	2.42	20	1.88	21	1
9	1.88	1.76	1.82	0.12	9	21	2.99	25	2.06	4	11
10	6.35	6.81	6.58	-0.46	10	6	3.18	4	2.12	25	15
11	8.97	9.20	9.09	-0.23	11	25	3.19	6	2.78	6	5
12	8.38	9.24	8.81	-0.86	12	19	3.82	19	3.49	19	23
13	1.96	1.65	1.81	0.31	13	16	5.87	16	5.30	16	9
14	8.14	8.79	8.47	-0.65	14	10	6.35	10	6.81	10	20
15	7.31	7.46	7.39	-0.15	15	17	6.73	17	7.18	17	4
16	5.87	5.30	5.59	0.57	16	23	7.20	23	7.18	23	13
17	6.73	7.18	6.96	-0.45	17	15	7.31	15	7.46	15	8
18	7.41	8.03	7.72	-0.62	18	18	7.41	18	8.03	18	19
19	3.82	3.49	3.66	0.33	19	14	8.14	5	8.35	5	2
20	2.07	1.88	1.98	0.19	20	5	8.24	3	8.60	3	6
21	2.99	1.23	2.11	1.76	21	3	8.28	14	8.79	14	22
22	1.82	1.39	1.61	0.43	22	12	8.38	1	8.92	1	16
23	7.20	7.18	7.19	0.02	23	7	8.65	7	9.08	12	24
24	2.37	1.70	2.04	0.67	24	1	8.66	11	9.20	7	25
25	3.19	2.06	2.63	1.13	25	11	8.97	12	9.24	11	21

Table 2 The Average (AVG), Standard Deviation (STD), Variance (VAR), Maximum (MAX) and Minimum (MIN) Points of High School Boys' and Girls' Consciousness (points) in Osaka Prefecture from 1957 to 1990

Statistical Analysis	Sex Distinction	'57 Year	'69 Year	'80 Year	'90 Year	AVG	STD	VAR
A V G	BOYS' (B)	5.17	5.15	5.12	5.00	5.11	0.07	0.00
	GIRLS' (G)	5.07	5.07	5.02	4.89	5.01	0.07	0.01
	A V G	5.12	5.11	5.07	4.95	5.06	0.07	0.00
	B - G	0.10	0.08	0.10	0.11	0.10	0.01	0.00
S T D	G / B	0.98	0.98	0.98	0.98	0.98	0.00	0.00
	BOYS' (B)	2.77	2.30	2.16	2.02	2.31	0.28	0.08
	GIRLS' (G)	3.20	2.62	2.55	2.37	2.69	0.31	0.10
	A V G	2.99	2.46	2.36	2.20	2.50	0.30	0.09
V A R	B - G	-0.43	-0.32	-0.39	-0.35	-0.37	0.04	0.00
	G / B	1.16	1.14	1.18	1.17	1.16	0.02	0.00
	BOYS' (B)	7.68	5.27	4.68	4.07	5.43	1.37	1.88
	GIRLS' (G)	10.21	6.87	6.50	5.62	7.30	1.74	3.03
M A X	A V G	8.95	6.07	5.59	4.85	6.36	1.55	2.41
	B - G	-2.53	-1.60	-1.82	-1.55	-1.88	0.39	0.15
	G / B	1.33	1.30	1.39	1.38	1.35	0.04	0.00
	BOYS' (B)	8.97	8.99	8.76	8.74	8.87	0.12	0.01
M I N	GIRLS' (G)	9.24	9.09	9.04	9.04	9.10	0.08	0.01
	A V G	9.11	9.04	8.90	8.89	8.98	0.09	0.01
	B - G	-0.27	-0.10	-0.28	-0.30	-0.24	0.08	0.01
	G / B	1.03	1.01	1.03	1.03	1.03	0.01	0.00
	BOYS' (B)	1.57	1.89	1.84	1.70	1.75	0.13	0.02
	GIRLS' (G)	1.23	1.56	1.65	1.70	1.54	0.18	0.03
	A V G	1.40	1.73	1.75	1.70	1.64	0.14	0.02
	B - G	0.34	0.33	0.19	0.00	0.22	0.14	0.02
	G / B	0.78	0.83	0.90	1.00	0.88	1.38	1.50

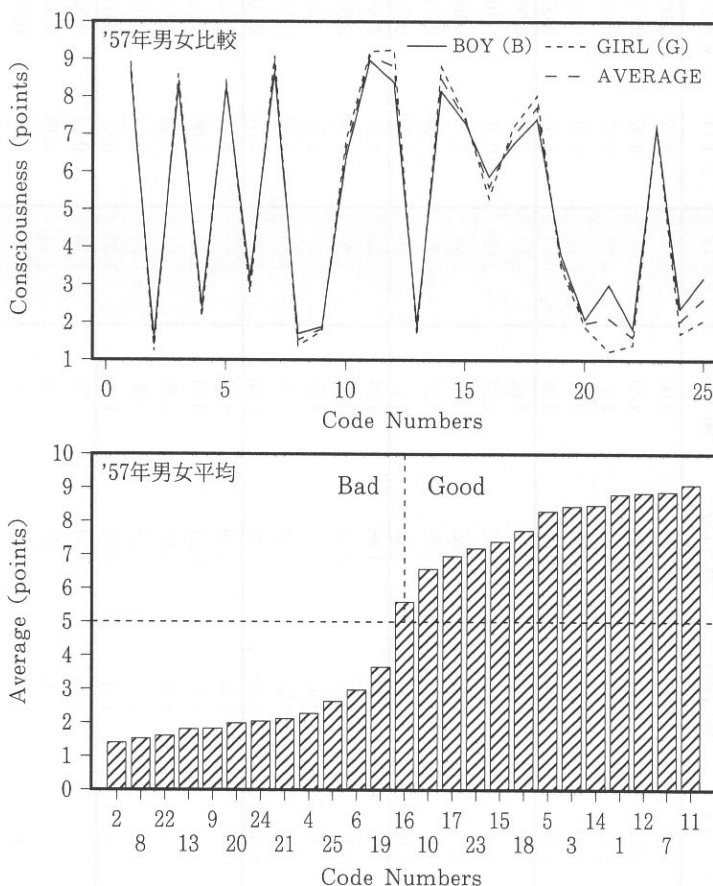


Fig.1 Line Graph (Upper Berth) of Boys' and Girls'; and Bar Graph (Lower Berth) of High School Students' Average Consciousness in Osaka Prefecture, 1957

という反社会的な要因に明白な判断の意思決定があり、その範囲は1.57p~1.96ポイントである。普通と思われる行為に対しては、長男大切や祖先の祭りおよび軍隊や天皇には善とか悪いとか判断しにくい意識が存在し、その範囲は3.19~6.73ポイントである。さらに、悪には家庭や国家関係があり、善には個

人や家庭および国家関係がある。**善いと思われる行為**に対しては、生活の規則性や人類の発展への協力に見られるとおり、対人関係について純潔な気持ちで接しようとする望ましい傾向が現れていることが理解でき、その範囲は8.28～8.97ポイントである。

3.1 β 1957年女子生徒のデータ分析値は、Table 1・2とFig. 1（上段：…線表示）のとおりである。平均値は5.07ポイントで男子よりも中立化傾向を示している。標準偏差は3.20ポイント、分散は10.21ポイント、最大値は9.24ポイントおよび最小値は1.23ポイントである。小から大の順に並べ替えると悪い・普通・善いの3グループに分類できる。

悪いと思われる行為	普通と思われる行為	善いと思われる行為
2学校机に傷（1.23社会悪）	6税金を少納（2.78国家悪）	14良こと実行（8.79個人善）
21内緒で交際（1.23社会悪）	19国家の軍隊（3.49国家悪）	1友人と約束（8.92社会善）
8親類助けず（1.37家庭悪）	16誉財に努力（5.30個人善）	7親孝行する（9.08家庭善）
22犠牲と幸福（1.39個人悪）	10祖先を祭る（6.81家庭善）	11人類の発展（9.20国家善）
13平和無関心（1.65国際悪）	17天皇を尊重（7.18国家善）	12結婚と純潔（9.24社会善）

ここでは、**悪いと思われる行為**に対しては、公共物破損・親戚助けずという反社会的な要因に明白な判断の意思決定があり、内緒で異性との交際にも明白な意思決定があり、その範囲は1.23～1.65ポイントである。**普通と思われる行為**に対しては、税金や祖先の祭りおよび軍隊や天皇には善とか悪とか判断しにくい意識が存在し、その範囲は2.78～7.18ポイントである。さらに、悪には国家関係があり、善には個人や家庭および国家関係がある。**善いと思われる行為**に対しては、生活の規則性や人類の発展への協力に見られるとおり対人関係について純潔な気持ちで接しようとする望ましい傾向が男子同様に現れていることが理解でき、その範囲は8.79～9.24ポイントである^{1、9)}。

3.1 γ 1957年全体のデータ分析値は、Table 1・2とFig. 1（上段：…線表示；下段：棒グラフ）のとおりである。棒グラフの左側は悪いと思われる想念行為であり、右側は善いと思われる想念行為が明白に現れた。平均値は5.

12ポイント、標準偏差は2.99ポイント、分散は8.95ポイント、最大値は9.11ポイントおよび最小値は1.40ポイントである。小から大の順にすれば、悪い・普通・善いの3グループに分類できる。

悪いと思われる行為	普通と思われる行為	善いと思われる行為
2学校机に傷 (1.40社会悪)	6税金を少納 (2.98国家悪)	14良こと実行 (8.47個人善)
8親類助けず (1.53家庭悪)	19国家の軍隊 (3.66国家悪)	1友人と約束 (8.79社会善)
22犠牲と幸福 (1.61個人悪)	16蓄財に努力 (5.59個人善)	12結婚と純潔 (8.81社会善)
13平和無関心 (1.81国家悪)	10祖先を祭る (6.58家庭善)	7親孝行する (8.87家庭善)
9世嫌い自殺 (1.82個人悪)	17天皇を尊重 (6.96国家善)	11人類の発展 (9.09国家善)

ここでは、**悪いと思われる行為**に対しては、公共物破損・親戚助けずや自殺という反社会的な要因に対し明白な判断の意思決定があり、その範囲は1.40～1.82ポイントである。**普通と思われる行為**に対しては、税金や祖先の祭りおよび軍隊や天皇には善とか悪とか判断しにくい意識が存在し、その範囲は2.98～6.96ポイントである。さらに、悪には国家関係があり、善には個人や家庭および国家関係がある。**善いと思われる行為**に対しては、生活の規則性や人類の発展は対人関係について純潔な気持ちで接しようとする望ましい傾向が現れていることが理解でき、その範囲は8.47～9.09ポイントである。

3.18 1957年男女生徒間の相違点¹⁾は、Table 1・2のとおりである。平均値は0.10ポイントで男子が少し大きいデータである。標準偏差は-0.43ポイント、分散は-2.53ポイント、最大値は-0.27ポイントおよび最小値は0.34ポイントである。男子生徒の意識と女子生徒の意識との意識差は以下のとおりである。

$$\text{意識の差} = \text{男子生徒の意識} - \text{女子生徒の意識} \dots\dots\dots(1)$$

男子生徒の意識と女子生徒の意識差を、小から大の順に並べ替えると女子生徒が上位である意識、男女生徒が共に普通である意識および男子生徒が上位である意識の3グループに分類できる。

女子が上位の意識	男女共に普通の意識	男子が上位の意識
12.結婚と純潔 (-0.86p)	5.日本国へ愛 (-0.11p)	22.犠牲と幸福 (0.43p)

14.良こと実行 (-0.65P)	23.先生に相談 (0.02p)	16.蓄財に努力 (0.57p)
18.家族と話合 (-0.62p)	9.世嫌い自殺 (0.12p)	24.押しのけ乗 (0.67p)
10.祖先を祭る (-0.46p)	20.タバコや酒 (0.19P)	25.長男が大切 (1.13p)
17.天皇を尊重 (-0.45p)	04.親には反抗 (0.30p)	21.内緒で交際 (1.76p)

12.結婚と純潔 (社会善)	5.日本国へ愛 (国家善)	22.犠牲と幸福 (個人悪)
14.良こと実行 (個人善)	23.先生に相談 (社会善)	16.蓄財に努力 (個人善)
18.家族と話合 (家庭善)	9.世嫌い自殺 (個人悪)	24.押しのけ乗 (社会悪)
10.祖先を祭る (家庭善)	20.タバコや酒 (個人悪)	25.長男が大切 (家庭悪)
17.天皇を尊重 (国家善)	4.親には反抗 (家庭悪)	21.内緒で交際 (社会悪)

ここでは、**女子生徒が男子生徒よりも上位**である意識は、以下の5項目であり、その範囲は-0.86~-0.45ポイントである。12.結婚するまで純潔を守ること。14.自分でよいと信じたことは他人の見ていない所でも実行すること。18.ちょっとした事でも家族みんなで話し合うこと。10.代々の祖先をよく祭ること。17.天皇を国家の象徴として尊重することである。**全体の生徒が共に普通**である意識は、以下の5項目で、その範囲は-0.11~0.30ポイントである。05.日本の国を愛すること。23.何事でもよく先生に相談すること。09.世の中が嫌になって自殺すること。20.高校生がタバコや酒を飲むこと。04.何事でも親の言うことは封建的だと思って反抗することである。**男子生徒が女子生徒よりも上位**である意識には、22.他人を犠牲にしても自分の幸福を求めること (0.43P)。16.名誉や地位、財産などを得るために努力すること (0.57P)。24.こみあっている時に人を押しのけて電車に乗ること (0.67P)。25.兄弟姉妹の中で長男がもっとも大切にされること (1.13P)。21.保護者に内緒で男女交際をすること (1.76P)以上の5項目である。その範囲は0.43~1.76ポイントである。男子と女子生徒間の意識関係 (**Fig. 2 の上段**) は、次のとおりである⁹⁾。

$$\text{女子の意識} = -0.837 + 1.144 \text{ 男子の意識} \cdots (R^2=0.983) \cdots \cdots (2)$$

3.2 1969年の男女生徒の比較と分類^{1, 7, 8)}

A. 1969年男子生徒のデータ分析値は、Table 2・3とFig. 3 (上段：一線

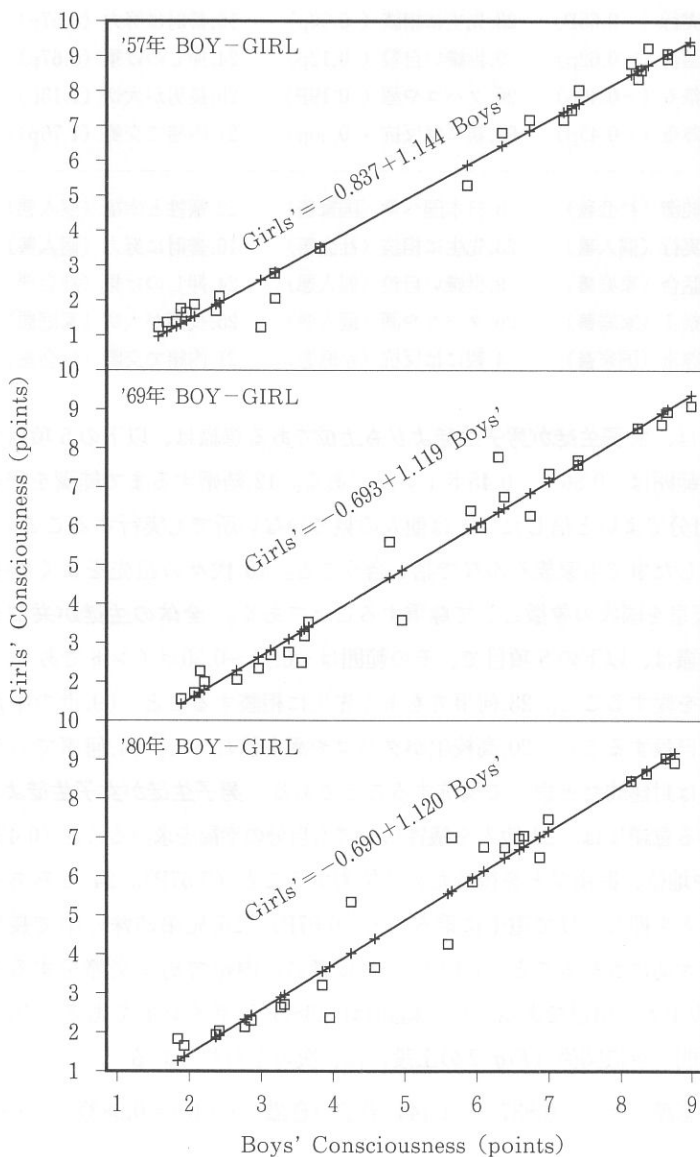


Fig.2 Relation between High School Girls' and Boys' Consciousness in Osaka Prefecture in 1957 (Upper Berth), 1969 (Middle Berth) and 1980 (Lower Berth)

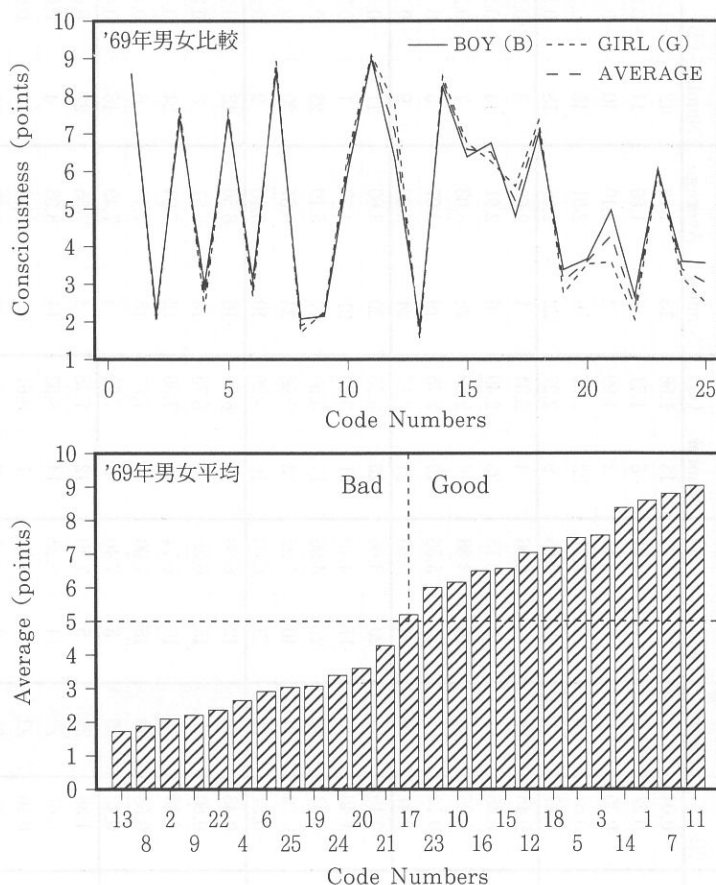


Fig.3 Line Graph (Upper Berth) of Boys' and Girls'; and Bar Graph (Lower Berth) of High School Students' Average Consciousness in Osaka Prefecture, 1969

表示) のとおりである。平均値は5.15ポイント、標準偏差は2.30ポイント、分散は5.27ポイント、最大値は8.99ポイントおよび最小値は1.89ポイントである。小から大の順に並べ替えると悪い・普通・善いの3グループに分類できる。

Table 3 The High School Boys' and Girls' Consciousness (points) in Osaka Prefecture in 1969

Code Number	Boys' (B)	Girls' (G)	Average	Difference (B - G)	Rank	Code Number	Boys' (B)	Code Number	Girls' (G)	Code Number	Average	Code Number	Difference (B - G)
1	8.57	8.61	8.59	-0.04	1	13	1.89	13	1.56	13	1.73	12	-1.48
2	2.21	1.99	2.10	0.22	2	8	2.07	8	1.71	8	1.89	17	-0.80
3	7.40	7.70	7.55	-0.30	3	9	2.15	2	1.99	2	2.10	10	-0.47
4	2.96	2.34	2.65	0.62	4	2	2.21	22	2.05	9	2.21	15	-0.37
5	7.40	7.57	7.49	-0.17	5	22	2.66	9	2.27	22	2.36	18	-0.35
6	3.13	2.68	2.91	0.45	6	4	2.96	4	2.34	4	2.65	3	-0.30
7	8.66	8.94	8.80	-0.28	7	6	3.13	25	2.49	6	2.91	14	-0.29
8	2.07	1.71	1.89	0.36	8	19	3.38	6	2.68	25	3.03	7	-0.28
9	2.15	2.27	2.21	-0.12	9	25	3.56	19	2.75	19	3.07	5	-0.17
10	5.92	6.39	6.16	-0.47	10	24	3.60	24	3.17	24	3.39	9	-0.12
11	8.99	9.09	9.04	-0.10	11	20	3.66	20	3.53	20	3.60	11	-0.10
12	6.30	7.78	7.04	-1.48	12	17	4.79	21	3.58	21	4.27	1	-0.04
13	1.89	1.56	1.73	0.33	13	21	4.96	17	5.59	17	5.19	23	0.10
14	8.23	8.52	8.38	-0.29	14	10	5.92	23	5.96	23	6.01	20	0.13
15	6.38	6.75	6.57	-0.37	15	23	6.06	16	6.26	10	6.16	2	0.22
16	6.74	6.26	6.50	0.48	16	12	6.30	10	6.39	16	6.50	13	0.33
17	4.79	5.59	5.19	-0.80	17	15	6.38	15	6.75	15	6.57	8	0.36
18	7.00	7.35	7.18	-0.35	18	16	6.74	18	7.35	12	7.04	24	0.43
19	3.38	2.75	3.07	0.63	19	18	7.00	5	7.57	18	7.18	6	0.45
20	3.66	3.53	3.60	0.13	20	3	7.40	3	7.70	5	7.49	16	0.48
21	4.96	3.58	4.27	1.38	21	5	7.40	12	7.78	3	7.55	22	0.61
22	2.66	2.05	2.36	0.61	22	14	8.23	14	8.52	14	8.38	4	0.62
23	6.06	5.96	6.01	0.10	23	1	8.57	1	8.61	1	8.59	19	0.63
24	3.60	3.17	3.39	0.43	24	7	8.66	7	8.94	7	8.80	25	1.07
25	3.56	2.49	3.03	1.07	25	11	8.99	11	9.09	11	9.04	21	1.38

悪いと思われる行為	普通と思われる行為	善いと思われる行為
13平和無関心 (1.89国際悪)	20タバコや酒 (3.66個人悪)	5日本国へ愛 (7.40国家善)
8親類助けず (2.07家庭悪)	17天皇を尊重 (4.79国家善)	14良こと実行 (8.23個人善)
9世嫌い自殺 (2.15個人悪)	21内緒で交際 (4.96社会悪)	1友人と約束 (8.57社会善)
2学校机に傷 (2.21社会悪)	10祖先を祭る (5.92家庭善)	7親孝行する (8.66家庭善)
22犠牲と幸福 (2.66個人悪)	23先生に相談 (6.06社会善)	11人類の発展 (8.99国家善)

B. 1969年女子生徒のデータ分析値は、Table 2・3とFig. 3（上段：…線表示）のとおりである。平均値は5.07ポイント、標準偏差は2.62ポイント、分散は6.87ポイント、最大値は9.09ポイントおよび最小値は1.56ポイントである。小から大の順に並べ替えると悪い・普通・善いの3グループに分類できる。

悪いと思われる行為	普通と思われる行為	善いと思われる行為
13平和無関心 (1.56国際悪)	20タバコや酒 (3.53個人悪)	12結婚と純潔 (7.78社会善)
8親類助けず (1.71家庭悪)	21内緒で交際 (3.58社会悪)	14良こと実行 (8.52個人善)
2学校机に傷 (1.99社会悪)	17天皇を尊重 (5.59国家善)	1友人と約束 (8.61社会善)
22犠牲と幸福 (2.05個人悪)	23先生に相談 (5.96社会善)	7親孝行する (8.94家庭善)
9世嫌い自殺 (2.27個人悪)	16営財に努力 (6.26個人善)	11人類の発展 (9.09国家善)

C. 1969年全体のデータ分析値は、Table 2・3とFig. 3（上段：…線表示；下段：棒グラフ）のとおりである。棒グラフの左側は悪いと思われる想念行為であり、右側は善いと思われる想念行為が明白に認められた。平均値は5.11ポイント、標準偏差は2.46ポイント、分散は6.07ポイント、最大値は9.04ポイントおよび最小値は1.73ポイントである。小から大の順に並べ替えると悪い・普通・善いの3グループに分類できる。

悪いと思われる行為	普通と思われる行為	善いと思われる行為
13平和無関心 (1.73国際悪)	20タバコや酒 (3.60個人悪)	3正生活計画 (7.55個人善)
8親類助けず (1.89家庭悪)	21内緒で交際 (4.27社会悪)	14良こと実行 (8.38個人善)
2学校机に傷 (2.10社会悪)	17天皇を尊重 (5.19国家善)	1友人と約束 (8.59社会善)
9世嫌い自殺 (2.21個人悪)	23先生に相談 (6.01社会善)	7親孝行する (8.80家庭善)
22犠牲と幸福 (2.36個人悪)	10祖先を祭る (6.16家庭善)	11人類の発展 (9.04国家善)

D. 1969年男女生徒間の相違点は、Table 2・3のとおりである。平均値は0.08ポイント、標準偏差は-0.32ポイント、分散は-1.60ポイント、最大値は-0.10ポイントおよび最小値は0.33ポイントである。小から大の順に並べ替える
と悪い・普通・善いの3グループに分類できる。

女子が上位の意識	男女共に普通の意識	男子が上位の意識
12結婚と純潔 (-1.48p)	11人類の発展 (-0.10p)	22犠牲と幸福 (0.61p)
17天皇を尊重 (-0.80p)	1友人と約束 (-0.04p)	4親には反抗 (0.62p)
10祖先を祭る (-0.47p)	23先生に相談 (0.10p)	19国家の軍隊 (0.63p)
15多数決に従 (-0.37p)	20タバコや酒 (0.13p)	25長男が大切 (1.07p)
18家族と話合 (-0.35p)	2学校机に傷 (0.22p)	21内緒で交際 (1.38p)

男子と女子生徒間の意識関係 (Fig. 2 の中段) は、次のとおりである。

女子の意識 = $-0.693 + 1.119$ 男子の意識 $\cdots (R^2=0.961) \cdots \cdots (3)$

3.3 1980年の男女生徒の比較と分類^{1,2,7,8)}

A. 1980年男子生徒のデータ分析値は、Table 2・4とFig. 4 (上段: 一線表示) のとおりである。平均値は5.12ポイント、標準偏差は2.16ポイント、分散は4.68ポイント、最大値は8.76ポイントおよび最小値は1.84ポイントである。小から大の順に並べ替えると悪い・普通・善いの3グループに分類できる⁷⁾。

悪いと思われる行為	普通と思われる行為	善いと思われる行為
9世嫌い自殺 (1.84個人悪)	17天皇を尊重 (4.25国家善)	3正生活計画 (6.99個人善)
8親類助けず (1.93家庭悪)	19国家の軍隊 (4.58国家悪)	14良こと実行 (8.14個人善)
13平和無関心 (2.37国際悪)	21内緒で交際 (5.60社会悪)	11人類の発展 (8.36国家善)
2学校机に傷 (2.42社会悪)	12結婚と純潔 (5.65社会善)	7親孝行する (8.63家庭善)
22犠牲と幸福 (2.77個人悪)	23先生に相談 (5.94社会善)	1友人と約束 (8.66社会善)

B. 1980年女子生徒のデータ分析値は、Table 2・4とFig. 4 (上段: ...線表示) のとおりである。平均値は5.02ポイント、標準偏差は2.55ポイント、分散は6.50ポイント、最大値は9.04ポイントおよび最小値は1.65ポイントであ

Table 4 The High School Boys' and Girls' Consciousness (points) in Osaka Prefecture in 1980

Code Number	Boys' (B)	Girls' (G)	Average	Difference (B-G)	Rank	Code Number	Boys' (B)	Girls' (G)	Average	Difference (B-G)	Code Number	Boys' (B)	Girls' (G)	Average	Difference (B-G)	Code Number
1	8.66	8.92	8.84	-0.16	1	9	1.84	1.65	1.79	-0.19	12	1.79	1.65	1.72	-0.14	12
2	2.42	2.03	2.23	0.39	2	8	1.93	1.83	1.84	0.10	17	1.84	1.83	1.83	0.01	17
3	6.99	7.47	7.23	-0.48	3	13	2.37	1.93	2.15	-0.22	15	2.15	1.93	2.04	-0.11	15
4	3.27	2.64	2.96	0.63	4	2	2.42	2.03	2.23	-0.20	3	2.23	2.03	2.13	-0.10	3
5	6.59	6.97	6.78	-0.38	5	22	2.77	2.13	2.45	-0.64	7	2.45	2.13	2.29	-0.36	7
6	2.86	2.30	2.58	0.56	6	6	2.86	2.30	2.58	0.56	10	2.58	2.30	2.44	-0.14	10
7	8.63	9.04	8.84	-0.41	7	4	3.27	2.37	2.96	-0.90	5	2.96	2.37	2.66	-0.59	5
8	1.93	1.65	1.79	0.28	8	24	3.32	2.64	3.02	-0.68	18	3.02	2.64	2.83	-0.19	18
9	1.84	1.83	1.84	0.01	9	20	3.85	2.71	3.16	-1.14	14	3.16	2.71	2.93	-0.25	14
10	6.65	7.04	6.85	-0.39	10	25	3.95	3.21	3.53	-0.74	11	3.53	3.21	3.37	-0.32	11
11	8.36	8.64	8.50	-0.28	11	17	4.25	3.66	4.12	-0.59	1	4.12	3.66	3.89	-0.46	1
12	5.65	6.99	6.32	-1.34	12	19	4.58	4.26	4.80	0.32	9	4.80	4.26	4.53	-0.27	9
13	2.37	1.93	2.15	0.44	13	21	5.60	5.34	4.93	-0.26	23	4.93	5.34	5.13	0.20	23
14	8.14	8.45	8.30	-0.31	14	12	5.65	5.86	5.90	0.25	8	5.90	5.86	5.88	0.02	8
15	6.10	6.75	6.43	-0.65	15	23	5.94	6.49	6.32	-0.55	16	6.32	6.49	6.40	0.08	16
16	6.87	6.49	6.68	0.38	16	15	6.10	6.74	6.43	-0.64	2	6.43	6.74	6.58	-0.15	2
17	4.25	5.34	4.80	-1.09	17	18	6.39	6.75	6.57	-0.36	13	6.57	6.75	6.66	-0.18	13
18	6.39	6.74	6.57	-0.35	18	5	6.59	6.97	6.68	-0.38	6	6.68	6.97	6.82	-0.29	6
19	4.58	3.66	4.12	0.92	19	10	6.65	6.99	6.78	-0.34	24	6.78	6.99	6.86	-0.17	24
20	3.85	3.21	3.53	0.64	20	16	6.87	7.04	6.85	-0.19	4	6.85	7.04	6.94	-0.19	4
21	5.60	4.26	4.93	1.34	21	3	6.99	7.47	7.23	-0.48	20	7.23	7.47	7.35	-0.22	20
22	2.77	2.13	2.45	0.64	22	14	8.14	8.45	8.30	-0.31	22	8.30	8.45	8.37	-0.15	22
23	5.94	5.86	5.90	0.08	23	11	8.36	8.64	8.50	-0.28	19	8.50	8.64	8.57	-0.14	19
24	3.32	2.71	3.02	0.61	24	7	8.63	8.92	8.84	-0.09	21	8.84	8.92	8.88	-0.04	21
25	3.95	2.37	3.16	1.58	25	1	8.66	9.04	8.84	-0.38	25	8.84	9.04	8.94	-0.10	25

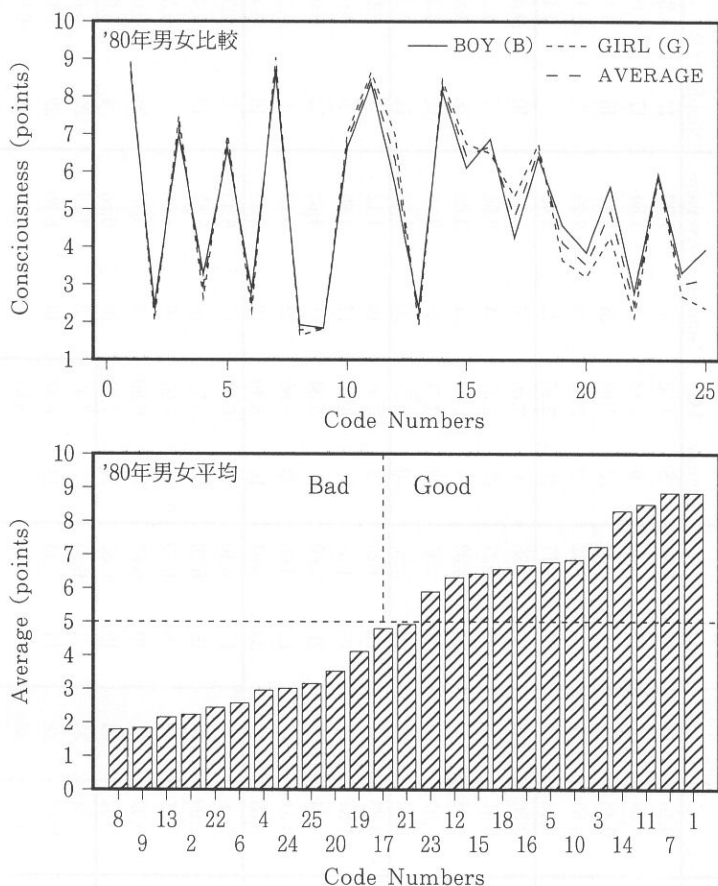


Fig.4 Line Graph (Upper Berth) of Boys' and Girls'; and Bar Graph (Lower Berth) of High School Students' Average Consciousness in Osaka Prefecture, 1980

る。小から大の順に並べ替えると悪い・普通・善いの3グループに分類できる⁷⁾。

悪いと思われる行為

普通と思われる行為

善いと思われる行為

8親類助けず (1.65家庭悪) 19国家の軍隊 (3.66国家悪) 3正生活計画 (7.47個人善)

9世嫌い自殺 (1.83個人悪) 21内緒で交際 (4.26社会悪) 14良こと実行 (8.45個人善)
 13平和無関心 (1.93国際悪) 17天皇を尊重 (5.34国家善) 11人類の発展 (8.64国家善)
 2学校机に傷 (2.03社会悪) 23先生に相談 (5.86社会善) 1友人と約束 (8.92社会善)
 22犠牲と幸福 (2.13個人悪) 16蓄財に努力 (6.49個人善) 7親孝行する (9.04家庭善)

C. 1980年全体のデータ分析値は、Table 2・4 と Fig. 4 (上段：・・・線表示；下段：棒グラフ) のとおりである。棒グラフの左側は悪いと思われる想念行為であり、右側は善いと思われる想念行為が明白にされた。平均値は5.07ポイント、標準偏差は2.36ポイント、分散は5.59ポイント、最大値は8.90ポイントおよび最小値1.75ポイントである。小から大の順に並べ替えると悪い・普通・善いの3グループに分類できる⁷⁾。

悪いと思われる行為	普通と思われる行為	善いと思われる行為
8親類助けず (1.79家庭悪)	19国家の軍隊 (4.12国家悪)	3正生活計画 (7.23個人善)
9世嫌い自殺 (1.84個人悪)	17天皇を尊重 (4.80国家善)	14良こと実行 (8.30個人善)
13平和無関心 (2.15国際悪)	21内緒で交際 (4.93社会悪)	11人類の発展 (8.50国家善)
2学校机に傷 (2.23社会悪)	23先生に相談 (5.90社会善)	7親孝行する (8.84家庭善)
22犠牲と幸福 (2.45個人悪)	12結婚と純潔 (6.32社会善)	1友人と約束 (8.84社会善)

D. 1980年男女生徒間の相違点は、Table 2・4 のとおりである。平均値は0.10ポイント、標準偏差は-0.39ポイント、分散は-1.82ポイント、最大値は-0.28ポイントおよび最小値は0.19ポイントである。小から大の順に並べ替えると悪い・普通・善いの3グループに分類できる。

女子が上位の意識	男女共に普通の意識	男子が上位の意識
12結婚と純潔 (-1.34p)	1友人と約束 (-0.16p)	20タバコや酒 (0.64P)
17天皇を尊重 (-1.09p)	9世嫌い自殺 (0.01p)	22犠牲と幸福 (0.64p)
15多数決に従 (-0.65p)	23先生に相談 (0.08p)	19国家の軍隊 (0.92p)
3正生活計画 (-0.48p)	8親類助けず (0.28p)	21内緒で交際 (1.34p)
7親孝行する (-0.41p)	2学校机に傷 (0.39p)	25長男が大切 (1.58p)

男子と女子生徒間の意識関係 (Fig. 2 の下段) は、次のとおりである。

$$\text{女子の意識} = -0.690 + 1.120 \text{ 男子の意識} \cdots (R^2=0.942) \cdots \cdots (4)$$

3.4 1990年の男女生徒の比較と分類^{1~3, 7~9)}

A. 1990年男子生徒のデータ分析値は、Table 2・5 と Fig. 5 (上段：一線表示) のとおりである。平均値は5.00ポイント、標準偏差は2.02ポイント、分散は4.07ポイント、最大値は8.74ポイントおよび最小値は1.70ポイントである。小から大の順に並べ替えると悪い・普通・善いの3グループに分類できる。

悪いと思われる行為	普通と思われる行為	善いと思われる行為
9世嫌い自殺 (1.70個人悪)	4親には反抗 (4.35家庭悪)	16蓄財に努力 (6.82個人善)
8親類助けず (2.01家庭悪)	17天皇を尊重 (4.44国家善)	14良こと実行 (7.49個人善)
13平和無関心 (2.51国際悪)	23先生に相談 (5.26社会善)	7親孝行する (8.39家庭善)
19国家の軍隊 (2.68国家悪)	12結婚と純潔 (5.29社会善)	11人類の発展 (8.49国家善)
2学校机に傷 (2.91社会悪)	15多数決に従 (5.51社会善)	1友人と約束 (8.74社会善)

B. 1990年女子生徒のデータ分析値は、Table 2・5 と Fig. 5 (上段：...線表示) のとおりである。平均値は4.89ポイント、標準偏差は2.37ポイント、分散は5.62ポイント、最大値は9.04ポイントおよび最小値は1.70ポイントである。小から大の順に並べ替えると悪い・普通・善いの3グループに分類できる。

悪いと思われる行為	普通と思われる行為	善いと思われる行為
8親類助けず (1.70家庭悪)	4親には反抗 (3.72家庭悪)	3正生活計画 (6.88個人善)
9世嫌い自殺 (1.75個人悪)	17天皇を尊重 (4.93国家善)	14良こと実行 (7.88個人善)
13平和無関心 (1.80国際悪)	23先生に相談 (5.09社会善)	7親孝行する (8.81家庭善)
19国家の軍隊 (1.94国家悪)	21内緒で交際 (5.45社会悪)	11人類の発展 (8.81国家善)
25長男が大切 (2.27家庭悪)	12結婚と純潔 (5.90社会善)	1友人と約束 (9.04社会善)

C. 1990年全体のデータ分析値は、Table 2・5 と Fig. 5 (上段：・・・線表示；下段：棒グラフ) のとおりである。棒グラフの左側は悪いと思われる想念行為であり、右側は善いと思われる想念行為が明白に認められた。平均値は4.95ポイント、標準偏差は2.20ポイント、分散は4.85ポイント、最大値は8.89ポイントおよび最小値は1.70ポイントである。小から大の順に並べ替えると悪い・普通・善いの3グループに分類できる。

Table 5 The High School Boys' and Girls' Consciousness (points) in Osaka Prefecture in 1990

Code Number	Boys' (B)	Girls' (G)	Average	Difference (B - G)	Rank	Code Number	Boys' (B)	Girls' (G)	Average	Difference (B - G)	Code Number	Boys' (B)	Girls' (G)	Average	Difference (B - G)
1	8.74	9.04	8.89	-0.30	1	9	1.70	8	1.73	15	1.73	9	1.70	1.73	-0.69
2	2.91	2.61	2.76	0.30	2	8	2.01	9	1.86	12	1.86	8	1.75	1.86	-0.61
3	6.53	6.88	6.71	-0.35	3	13	2.51	13	2.16	17	2.16	13	1.80	2.16	-0.49
4	4.35	3.72	4.04	0.63	4	19	2.68	19	2.31	18	2.31	19	1.94	2.31	-0.46
5	5.65	5.99	5.82	-0.34	5	2	2.91	25	2.76	7	2.76	2	2.27	2.76	-0.42
6	3.33	2.75	3.04	0.58	6	22	3.08	2	2.88	10	2.88	22	2.61	2.88	-0.41
7	8.39	8.81	8.60	-0.42	7	6	3.33	22	2.99	14	2.99	25	2.67	2.99	-0.39
8	2.01	1.70	1.86	0.31	8	25	3.71	6	3.04	3	3.04	6	2.75	3.04	-0.35
9	1.70	1.75	1.73	-0.05	9	24	3.79	24	3.44	5	3.44	24	3.09	3.44	-0.34
10	6.24	6.65	6.45	-0.41	10	20	3.85	20	3.57	11	3.57	20	3.28	3.57	-0.32
11	8.49	8.81	8.65	-0.32	11	4	4.35	4	4.04	1	4.04	4	3.72	4.04	-0.30
12	5.29	5.90	5.60	-0.61	12	17	4.44	17	4.69	9	4.69	17	4.93	4.69	-0.05
13	2.51	1.80	2.16	0.71	13	23	5.26	23	5.18	23	5.18	23	5.09	5.18	0.17
14	7.49	7.88	7.69	-0.39	14	12	5.29	21	5.60	16	5.60	12	5.45	5.60	0.19
15	5.51	6.20	5.86	-0.69	15	15	5.51	12	5.82	2	5.82	5	5.90	5.82	0.30
16	6.82	6.63	6.73	0.19	16	5	5.65	5	5.86	8	5.86	15	5.99	5.86	0.31
17	4.44	4.93	4.69	-0.49	17	18	5.90	15	5.88	22	5.88	21	6.20	5.88	0.41
18	5.90	6.36	6.13	-0.46	18	10	6.24	18	6.13	20	6.13	18	6.36	6.13	0.57
19	2.68	1.94	2.31	0.74	19	21	6.30	16	6.45	6	6.45	10	6.63	6.45	0.58
20	3.85	3.28	3.57	0.57	20	3	6.53	10	6.71	4	6.71	3	6.65	6.71	0.63
21	6.30	5.45	5.88	0.85	21	16	6.82	3	6.73	24	6.73	16	6.88	6.73	0.70
22	3.08	2.67	2.88	0.41	22	14	7.49	14	7.69	13	7.69	14	7.88	7.69	0.71
23	5.26	5.09	5.18	0.17	23	7	8.39	7	8.60	19	8.60	7	8.81	8.60	0.74
24	3.79	3.09	3.44	0.70	24	11	8.49	11	8.65	21	8.65	11	8.81	8.65	0.85
25	3.71	2.27	2.99	1.44	25	1	8.74	1	8.89	25	8.89	1	9.04	8.89	1.44

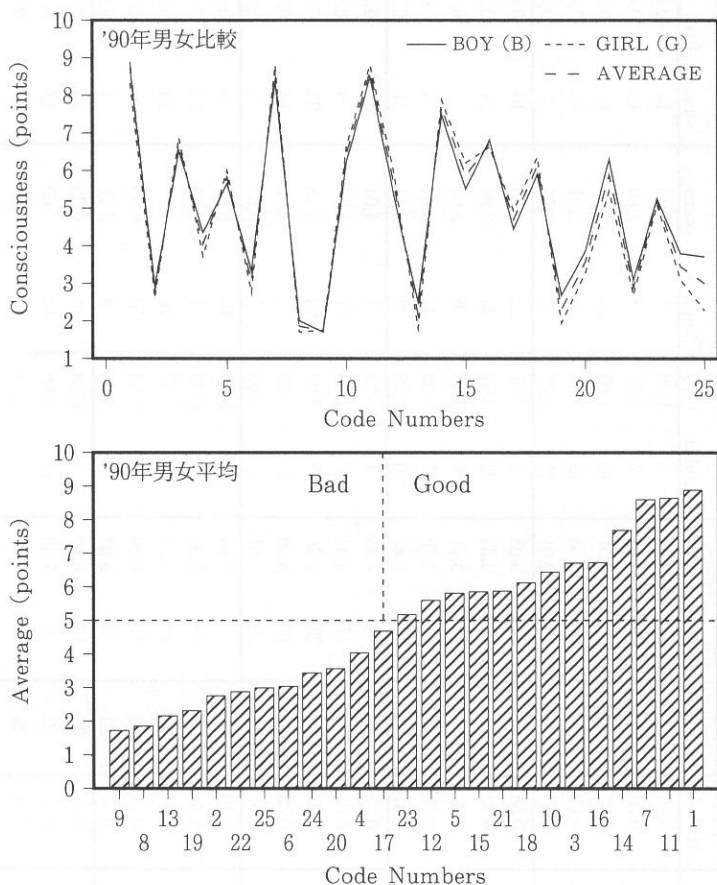


Fig.5 Line Graph (Upper Berth) of Boys' and Girls'; and Bar Graph (Lower Berth) of High School Students' Average Consciousness in Osaka Prefecture, 1990

悪いと思われる行為

9世嫌い自殺 (1.73個人悪) 4親には反抗 (4.04家庭悪) 16蓄財に努力 (6.73個人善)

8親類助けず (1.86個人悪) 17天皇を尊重 (4.69国家善) 14良こと実行 (7.69個人善)

13平和無関心 (2.16国際悪) 23先生に相談 (5.18社会善) 7親孝行する (8.60家庭善)

19国家の軍隊 (2.31国家悪) 12結婚と純潔 (5.60社会善) 11人類の発展 (8.65国家善)

普通と思われる行為

善いと思われる行為

2学校机に傷（2.76社会悪） 5日本国へ愛（5.82国家善） 1友人と約束（8.89社会善）

D. 1990年男女生徒間の相違点は、Table 2・5のとおりである。平均値は0.11ポイント、標準偏差は-0.35ポイント、分散は-1.55ポイント、最大値は-0.30ポイントおよび最小値は0.00ポイントである。小から大の順にすれば、悪い・普通・善いの3グループに分類できる。

女子が上位の意識	男女共に普通の意識	男子が上位の意識
15.多数決に従（-0.69p）	1.友人と約束（-0.30p）	24.押しのけ乗（0.70p）
12.結婚と純潔（-0.61p）	9.世嫌い自殺（-0.05p）	13.平和無関心（0.71p）
17.天皇を尊重（-0.49p）	23.先生に相談（0.17p）	19.国家の軍隊（0.74p）
18.家族と話合（-0.46P）	16.蓄財に努力（0.19p）	21.内緒で交際（0.85p）
7.親孝行する（-0.42p）	2.学校机に傷（0.30p）	25.長男が大切（1.44p）

男子と女子生徒間の意識関係（Fig. 6の上段）は、次のとおりである。

$$\text{女子の意識} = -0.870 + 1.152 \text{ 男子の意識} \cdots (R^2=0.962) \cdots (5)$$

4 検 討

4.1 '57～'90年の男女生徒の比較と分類^{1～3, 7～9)}

4.1 α '57～'90年の男子生徒のデータ分析値は、Table 2・6とFig. 7（上段：一線表示）のとおりである。平均値は5.11ポイント、標準偏差は2.31ポイント、分散は5.43ポイント、最大値は8.87ポイントおよび最小値は1.75ポイントである。小から大の順にすれば、悪い・普通・善いの3グループに分類できる。

悪いと思われる行為	普通と思われる行為	善いと思われる行為
9世嫌い自殺（1.89個人悪）	19国家の軍隊（3.62国家悪）	3正生活計画（7.30個人善）
8親類助けず（1.93家庭悪）	21内緒で交際（4.96社会悪）	14良こと実行（8.00個人善）
13平和無関心（2.18国際悪）	17天皇を尊重（5.05国家善）	7親孝行する（8.58家庭善）
2学校机に傷（2.28社会悪）	23先生に相談（6.12社会善）	1友人と約束（8.68社会善）
22犠牲と幸福（2.58個人悪）	10祖先を祭る（6.29家庭善）	11人類の発展（8.70国家善）

Table 6 The High School Boys' and Girls' Consciousness (points) in Osaka Prefecture from 1957 to 1990

Code Number	Boys' (B)	Girls' (G)	Average	Difference (B - G)	Rank	Code Number	Boys' (B)	Girls' (G)	Average	Code Number	Difference (B - G)
1	8.68	8.87	8.78	-0.19	1	9	1.89	8	1.77	12	-1.07
2	2.28	1.97	2.12	0.31	2	8	1.93	13	1.90	17	-0.71
3	7.30	7.66	7.48	-0.36	3	13	2.18	9	1.96	15	-0.46
4	3.25	2.71	2.98	0.54	4	2	2.28	2	2.12	18	-0.45
5	6.97	7.22	7.10	-0.25	5	22	2.58	22	2.32	10	-0.43
6	3.13	2.63	2.88	0.50	6	6	3.13	25	2.88	14	-0.41
7	8.58	8.97	8.78	-0.38	7	4	3.25	6	2.95	7	-0.38
8	1.93	1.61	1.77	0.32	8	24	3.27	24	2.97	3	-0.36
9	1.89	1.90	1.90	-0.01	9	20	3.36	4	2.98	5	-0.25
10	6.29	6.72	6.51	-0.43	10	25	3.60	19	3.17	11	-0.23
11	8.70	8.94	8.82	-0.23	11	19	3.62	20	3.29	1	-0.19
12	6.41	7.48	6.94	-1.07	12	21	4.96	21	4.30	9	-0.01
13	2.18	1.74	1.96	0.45	13	17	5.05	17	5.41	23	0.09
14	8.00	8.41	8.21	-0.41	14	23	6.12	23	6.07	2	0.31
15	6.33	6.79	6.56	-0.46	15	10	6.29	16	6.37	8	0.32
16	6.58	6.17	6.37	0.41	16	15	6.33	10	6.51	20	0.38
17	5.05	5.76	5.41	-0.71	17	12	6.41	15	6.56	16	0.41
18	6.68	7.12	6.90	-0.45	18	16	6.58	18	6.90	13	0.45
19	3.62	2.96	3.29	0.66	19	18	6.68	5	6.94	6	0.50
20	3.36	2.98	3.17	0.38	20	5	6.97	12	7.10	22	0.52
21	4.96	3.63	4.30	1.33	21	3	7.30	3	7.48	4	0.54
22	2.58	2.06	2.32	0.52	22	14	8.00	14	8.21	24	0.60
23	6.12	6.02	6.07	0.09	23	7	8.58	1	8.78	19	0.66
24	3.27	2.67	2.97	0.60	24	1	8.68	11	8.78	25	1.31
25	3.60	2.30	2.95	1.31	25	11	8.70	7	8.82	21	1.33

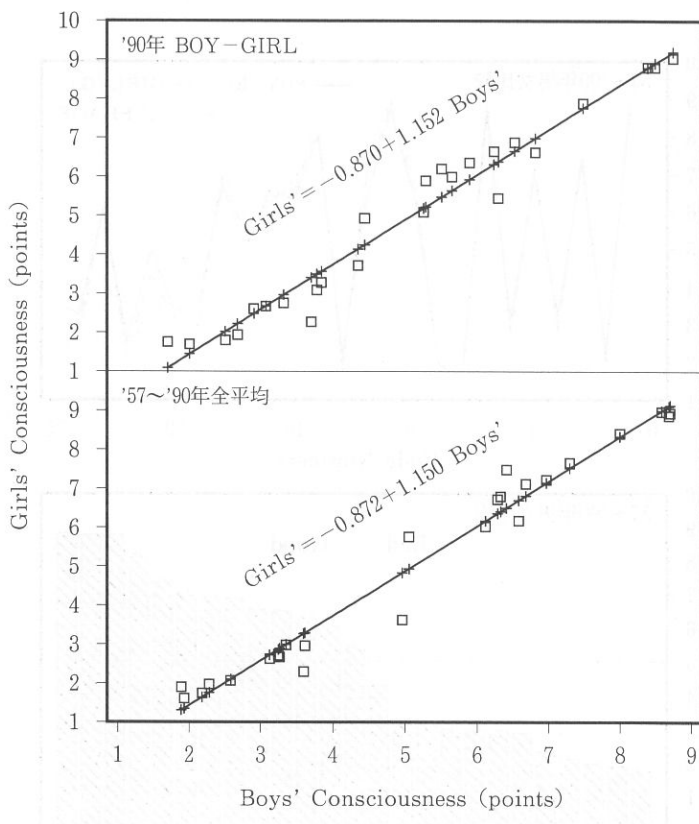


Fig.6 Relation between High School Girls' and Boys' Consciousness in Osaka Prefecture in 1990 (Upper Berth) and Years 1957-1990 (Lower Berth)

悪いと思われる行為に対しては、世の中が嫌になって自殺すること (1.89p)。親類に困っている人があっても助けないこと (1.93p)。世界平和は我々とかけ離れたこととして無関心である (2.18p)。学校の机に傷をつけること (2.28p)。他人を犠牲にしても自分の幸福を求めること (2.58p)。以上5項目である。すなわち、反社会的な行動に明白な判断の意思決定があり、その範囲は1.89p~2.58ポイントである。**普通と思われる行為**に対しては、悪には国家や社会関係があり、善には国家・社会および家庭関係がある。すなわち、国家・交際・天皇・

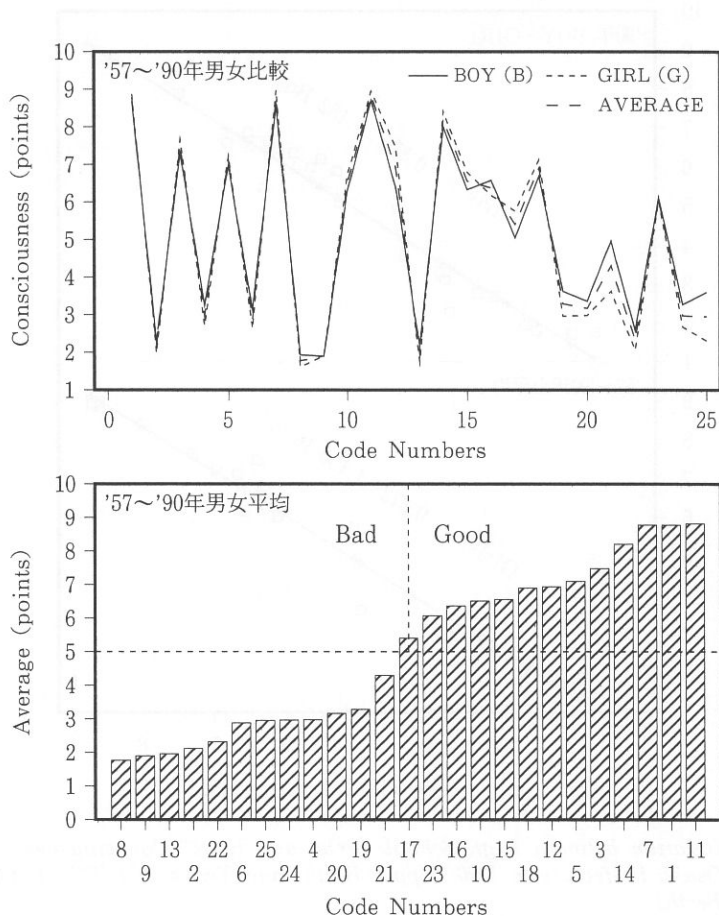


Fig.7 Line Graph (Upper Berth) of Boys' and Girls'; and Bar Graph (Lower Berth) of High School Students' Average Consciousness in Osaka Prefecture, 1957-1990

先生との相談や祖先を祭るには善とか悪とか判断しにくい意識が存在し、その範囲は3.62~6.29ポイントである⁸⁾。

善いと思われる行為に対しては、規則正しい生活をするための計画を立てること (7.30p)。自分でよいと信じたことは他人の見ていない所でも実行するこ

と（8.00p）。親孝行をすること（8.58p）。友人と結んだ約束を守ること（8.68p）。人類の発展のために世界の国が協力すること（8.70p）。以上5項目である。すなわち、生活の規則性や人類の発展は高校生らしい純潔な心から出た理性のある判断を示していることが理解でき、その範囲は7.30～8.70ポイントである⁸⁾。

4.1 β '57～'90年の女子生徒のデータ分析値は、Table 2・6とFig. 7（上段：...線表示）のとおりである。平均値は5.01ポイント、標準偏差は2.69ポイント、分散は7.30ポイント、最大値は9.10ポイントおよび最小値は1.54ポイントである。小から大の順に並べ替えると悪い・普通・善いの3グループに分類できる。

悪いと思われる行為	普通と思われる行為	善いと思われる行為
8親類助けず（1.61家庭悪）	20タバコや酒（2.98個人悪）	3正生活計画（7.66個人善）
13平和無関心（1.74国際悪）	21内緒で交際（3.63社会悪）	14良こと実行（8.41個人善）
9世嫌い自殺（1.90個人悪）	17天皇を尊重（5.76国家善）	1友人と約束（8.87社会善）
2学校机に傷（1.97社会悪）	23先生に相談（6.02社会善）	11人類の発展（8.94国家善）
22犠牲と幸福（2.06個人悪）	16蓄財に努力（6.17個人善）	7親孝行する（8.97家庭善）

悪いと思われる行為に対しては、親類に困っている人があっても助けないこと（1.61p）。世界平和は我々とかけ離れたこととして無関心である（1.74p）。世の中が嫌になって自殺すること（1.90p）。学校の机に傷をつけること（1.97p）。他人を犠牲にしても自分の幸福を求めること（2.06p）。以上5項目である。これらの項目は自己保存・我欲・自己顕示欲という社会的な要因で起きている面があるが、悪と思う明白な判断を示しているものと解釈できる⁹⁾。その範囲は1.61～2.06ポイントである。**普通と思われる行為**に対しては、悪には個人や社会関係があり、善には国家・社会および個人関係がある。これら5項目については善いとも悪いとも言い切れない面があり、判断しにくい結果が出ている。その範囲は2.98～6.17ポイントである。

善いと思われる行為に対しては、規則正しい生活をするための計画を立てること（7.66p）。自分でよいと信じたことは他人の見えていない所でも実行するこ

と (8.41p)。友人と結んだ約束を守ること (8.87p)。人類の発展のために世界の国が協力すること (8.94p)。親孝行をすること (8.97p)。以上 5 項目である。生活の規則性や、よいことの実行力および人類の発展や親孝行に関することに正しい理性的判断をしている。その範囲は 7.66～8.97 ポイントである。

4.1 γ '57～'90年の全体のデータ分析値は、Table 2・6 と Fig. 7 (上段：・線表示；下段：棒グラフ) のとおりである。棒グラフの左側は悪いと思われる想念行為であり、右側は善いと思われる想念行為が明白に現れた。平均値は 5.06 ポイント、標準偏差は 2.50 ポイント、分散は 6.36 ポイント、最大値は 8.98 ポイントおよび最小値は 1.64 ポイントである。小から大の順にすれば、悪い・普通・善いの 3 グループに分類できる。

悪いと思われる行為	普通と思われる行為	善いと思われる行為
8 親類助けず (1.77 家庭悪)	19 国家の軍隊 (3.29 国家悪)	3 正生活計画 (7.48 個人善)
9 世嫌い自殺 (1.90 個人悪)	21 内緒で交際 (4.30 社会悪)	14 良こと実行 (8.21 個人善)
13 平和無関心 (1.96 国際悪)	17 天皇を尊重 (5.41 国家善)	7 親孝行する (8.78 家庭善)
2 学校机に傷 (2.12 社会悪)	23 先生に相談 (6.07 社会善)	1 友人と約束 (8.78 社会善)
22 犠牲と幸福 (2.32 個人悪)	16 誉財に努力 (6.37 個人善)	11 人類の発展 (8.82 国家善)

悪いと思われる行為に対しては、08.親類に困っている人があっても助けないこと (1.77p)。09.世の中が嫌になって自殺すること (1.90p)。13.世界平和は我々とかけ離れたこととして無関心である (1.96p)。02.学校の机に傷をつけること (2.12p)。22.他人を犠牲にしても自分の幸福を求めること (2.32p)。以上の5項目である。自分は社会の構成員であることが忘れられ、相互扶助の精神が欠乏している傾向がみ受けられる。生きることの自覚は、目には見えないが生かされていることの自覚をすることからはじまる。人は助け、助けられ、共に生きることにより幸福が得られる。その範囲は 1.77～2.32 ポイントである。
普通と思われる行為に対しては、悪には国家や社会関係があり、善には国家・社会および個人関係がある。以上はいずれも価値観の多様化の中で判断しにくい項目といえる。その範囲は 3.29～6.37 ポイントである。

善いと思われる行為に対しては、03.規則正しい生活をするための計画を立

てること (7.48p)。14.自分でよいと信じたことは他人の見ていない所でも実行すること (8.21p)。07.親孝行をすること (8.78p)。01.友人と結んだ約束を守ること (8.78p)。11.人類の発展のために世界の国が協力すること (8.82p)。以上の5項目である。規則正しい生活や良いことの実行については善い傾向であり、親・友人および人類に協力することは、限りなき心の財産である。人生の目的と使命とは、「まず、悪い心を修正することであり、第2には、新しい世界を学習することであり、第3には、ユートピア社会の形成に奉仕する」ことである。その範囲は7.48～8.82ポイントである。

4.18 '57～'90年の男女生徒間の相違点¹⁻³⁾は、Table 2・6のとおりである。平均値は0.10ポイント、標準偏差は-0.37ポイント、分散は-1.88ポイント、最大値は-0.24ポイントおよび最小値は0.21ポイントである。小から大の順に並べ替えると思い・普通・善いの3グループに分類できる。

女子が上位の意識	男女共に普通の意識	男子が上位の意識
12.結婚と純潔 (-1.07p)	1.友人と約束 (-0.19p)	4.親には反抗 (0.54p)
17.天皇を尊重 (-0.71p)	9.世嫌い自殺 (-0.01p)	24.押しのけ乗 (0.60p)
15.多数決に従 (-0.46p)	23.先生に相談 (0.09p)	19.国家の軍隊 (0.66p)
18.家族と話合 (-0.45P)	2.学校机に傷 (0.31p)	25.長男が大切 (1.31p)
10.祖先を祭る (-0.43p)	8.親類助けず (0.32p)	21.内緒で交際 (1.33p)

12.結婚と純潔 (社会善)	1.友人と約束 (社会善)	4.親には反抗 (家庭悪)
17.天皇を尊重 (国家善)	9.世嫌い自殺 (個人悪)	24.押しのけ乗 (社会悪)
15.多数決に従 (社会善)	23.先生に相談 (社会善)	19.国家の軍隊 (国家悪)
18.家族と話合 (家庭善)	2.学校机に傷 (社会悪)	25.長男が大切 (家庭悪)
10.祖先を祭る (家庭善)	8.親類助けず (個人悪)	21.内緒で交際 (社会悪)

女子生徒が男子生徒よりも上位である意識としては、12.結婚するまで純潔を守ること (-1.07p)。17.天皇を国家の象徴として尊重すること (-0.71p)。15.自分は不服であっても多数決で決まったことには従うこと (-0.46p)。18.ちょっとした事でも家族みんなで話し合うこと (-0.45p)。10.代々の祖先をよく祭ること (-0.43p)。以上の5項目である⁸⁾。その範囲は-1.07～-0.43

ポイントである。

男女が共に普通である意識としては、1.友人との約束 (-0.19p)。9.世嫌い自殺 (-0.01p)。23.先生に相談 (0.09p)。2.学校の机に傷をつける (0.31p) および8.親類に困っている人があっても助けないこと (0.32p)。以上の5項目である。それらの5項目は男女共に大きな差異がないことが明らかに証明された。その範囲は-0.19~0.32ポイントである。

男子生徒が女子生徒よりも上位である意識としては、04.何事でも親の言うことは封建的だと思って反抗すること (0.54p)。24.こみあっている時に人を押しのけて電車に乗ること (0.60p)。19.国家を強くするために強力な軍隊を持つこと (0.66p)。25.兄弟姉妹の中で長男がもっとも大切にされること (1.31p)。21.保護者に内緒で男女交際をすること (1.33p)。以上の5項目である。これらの5項目は人間関係では社会組織の中で生きる人間関係について女子生徒とは違う関心を示していることが感じられる⁹⁾。その範囲は0.54~1.33ポイントである。男子と女子生徒間の意識関係 (**Fig. 6 の下段**) は、次のとおりである。

$$\text{女子の意識} = -0.872 + 1.150 \text{ 男子の意識} \cdots (R^2=0.970) \cdots \cdots (6)$$

4.2 各ポイントの経年変化と傾向分析

各ポイントの経年変化とその傾向を分析するために、1957年から始まり1969年、1980年および1990年までの33年間のデータを収録した。収録したデータは男子生徒、女子生徒や男女生徒の平均値の**増大**と**減少**である。その右の欄では、男女生徒の格差の**増大**と**減少**である。ここでは、調査年度が経過するにつれ大きくなる傾向のポイントは**増大**とし、小さくなる傾向のポイントは**減少**とする。

男子生徒・女子生徒や男女生徒の平均値の比較において、調査年度が経過するにつれ、共に、**増大**する項目は、02.学校机に傷・04.親には反抗・16.蓄財に努力・21.内緒で交際および22.犠牲と幸福の5項目である。男子生徒・女子生徒や男女生徒の平均値の比較において、調査年度が経過するにつれ、共に、**減少**する項目は、03.正生活計画・05.日本国へ愛・12.結婚と純潔・15.多数決に従・18.家族と話合および23.先生に相談の6項目である。男女生徒のポイント

コンピューター解析による大阪府下高校生の意識調査Ⅰ（沢、荒田）

番号 項目	男子生徒		女子生徒		男女平均		男女格差	
	増大	減少	増大	減少	増大	減少	増大	減少
2. 学校机に傷	増大		増大		増大			
4. 親には反抗	増大		増大		増大		増大	
16. 蓄財に努力	増大		増大		増大			
21. 内緒で交際	増大		増大		増大			
22. 犠牲と幸福	増大		増大		増大			
20. タバコや酒	増大							
13. 平和無関心							増大	
6. 税金を少納							増大	
3. 正生活計画		減少		減少		減少		
5. 日本国へ愛		減少		減少		減少		減少
12. 結婚と純潔		減少		減少		減少		
15. 多数決に従		減少		減少		減少		減少
18. 家族と話し		減少		減少		減少		
23. 先生に相談		減少		減少		減少		
14. 良こと実行				減少		減少		
17. 天皇を尊重				減少		減少		
19. 国家の軍隊						減少		

の格差を比較した。調査年度が経過するにつれ、増大する項目は、04.親には反抗・06.税金を少納および13.平和無関心の3項目である。減少する項目は、05.日本国へ愛と15.多数決に従の2項目である。

4.3 平均値・標準偏差・分散における経年変化と傾向

A. 平均値の経年変化と傾向

男子生徒の平均値は、1957年の5.17ポイントから1990年の5.00ポイントまでに徐々に減少の傾向である。女子生徒の平均値は、男子よりも少なく1957年の5.07ポイントから1990年の4.89ポイントまでに徐々に減少の傾向である。善い

と思われる意識が悪いと思われる意識に下降している。これらの回帰式（Fig. 8 の中段）は、次のとおりである。

$$\text{男子平均値} = 5.467 - 0.00 \text{ 年} \cdots \cdots (R^2=0.807) \cdots \cdots (7)$$

$$\text{女子平均値} = 5.401 - 0.01 \text{ 年} \cdots \cdots (R^2=0.770) \cdots \cdots (8)$$

$$\text{全体平均値} = 5.420 - 0.00 \text{ 年} \cdots \cdots (R^2=0.780) \cdots \cdots (9)$$

B. 標準偏差の経年変化と傾向

男子生徒の平均値は、1957年の2.77ポイントから1990年の2.02ポイントまでに徐々に減少の傾向である。女子生徒の平均値は、男子よりも大きく1957年の3.20ポイントから1990年の2.37ポイントまでに徐々に減少の傾向である。また、男子よりも女子の方が大きいバラツキである。これらの回帰式（Fig. 9 の上段）は、次のとおりである。

$$\text{男子標準偏差} = 3.938 - 0.02 \text{ 年} \cdots \cdots (R^2=0.919) \cdots \cdots (10)$$

$$\text{女子標準偏差} = 4.429 - 0.02 \text{ 年} \cdots \cdots (R^2=0.870) \cdots \cdots (11)$$

$$\text{全体標準偏差} = 4.180 - 0.02 \text{ 年} \cdots \cdots (R^2=0.890) \cdots \cdots (12)$$

C. 分散の経年変化と傾向

男子生徒の平均値は、1957年の7.68ポイントから1990年の4.07ポイントまでに徐々に減少の傾向である。女子生徒の平均値は、男子よりも大きく1957年の10.21ポイントから1990年の5.62ポイントまでに徐々に減少の傾向である。また、男子よりも女子の方が大きいバラツキである。これらの回帰式（Fig. 9 の下段）は、次のとおりである。

$$\text{男子分散値} = 13.205 - 0.11 \text{ 年} \cdots \cdots (R^2=0.893) \cdots \cdots (13)$$

$$\text{女子分散値} = 16.947 - 0.13 \text{ 年} \cdots \cdots (R^2=0.850) \cdots \cdots (14)$$

$$\text{全体分散値} = 15.080 - 0.12 \text{ 年} \cdots \cdots (R^2=0.870) \cdots \cdots (15)$$

D. 最大値の経年変化と傾向

男子生徒の最大値は、1957年の8.97ポイントから1990年の8.74ポイントまでに徐々に減少の傾向である。女子生徒の最大値は、男子よりも大きく1957年の

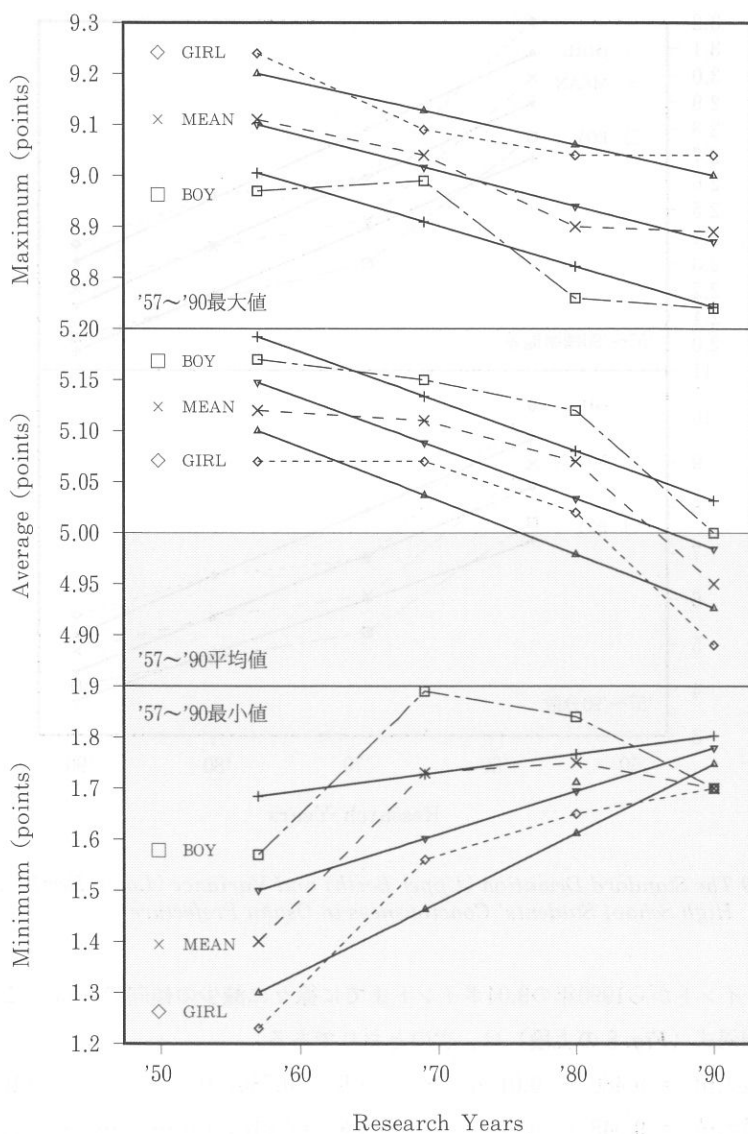


Fig.8 The Maximum (Upper Berth), Average (Middle Berth) and Minimum (Lower Berth) of High School Students' Consciousness in Osaka Prefecture

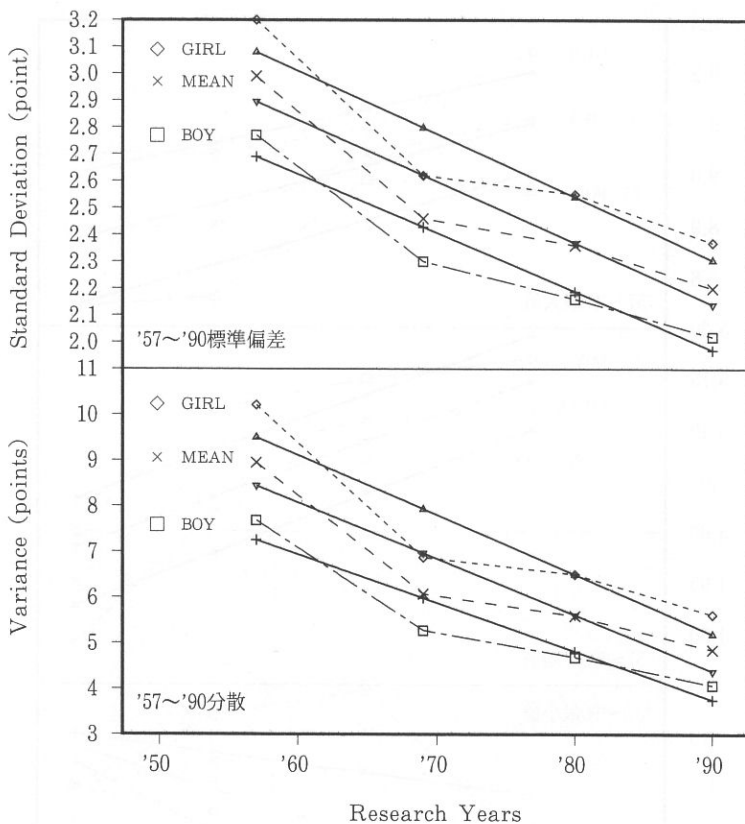


Fig.9 The Standard Deviation (Upper Berth) and Variance (LowerBerth) of High School Students' Conciousness in Osaka Prefecture

9.24ポイントから1990年の9.04ポイントまでに徐々に減少の傾向である。これらの回帰式 (Fig. 8 の上段) は、次のとおりである。

$$\text{男子最大値} = 9.480 - 0.01 \text{ 年} \dots\dots\dots (R^2=0.786) \dots\dots\dots (16)$$

$$\text{女子最大値} = 9.548 - 0.01 \text{ 年} \dots\dots\dots (R^2=0.818) \dots\dots\dots (17)$$

$$\text{全体最大値} = 9.530 - 0.01 \text{ 年} \dots\dots\dots (R^2=0.930) \dots\dots\dots (18)$$

E. 最小値の経年変化と傾向

男子生徒の最小値は、1957年の1.57ポイントから1990年の1.70ポイントまでに徐々に増大の傾向である。女子生徒の最小値は、男子よりも小さく1957年の1.23ポイントから1990年の1.70ポイントまでに徐々に増大の傾向である。これらの回帰式（Fig. 8 の下段）は、次のとおりである。

$$\text{男子最小値} = 1.494 + 0.00 \text{ 年} \cdots \cdots (R^2=0.116) \cdots \cdots (19)$$

$$\text{女子最小値} = 0.510 + 0.01 \text{ 年} \cdots \cdots (R^2=0.866) \cdots \cdots (20)$$

$$\text{全体最小値} = 1.000 + 0.01 \text{ 年} \cdots \cdots (R^2=0.570) \cdots \cdots (21)$$

5 おわりに

大阪府下にある高校生を対象とする「高校生の意識調査研究報告」の中で1957年から始まり1969年や1980年および1990年までのデータをコンピューター処理をすることによって意識の実態と動向を分析し、その傾向を明らかにすることができた。その結果は、次のとおりである。

A. '57～'90年の男女生徒の比較

男子生徒のデータ分析では、平均値は5.11ポイント、標準偏差は2.31ポイント、分散は5.43ポイント、最大値は8.87ポイントおよび最小値は1.75ポイントである。**女子生徒のデータ分析**では、平均値は5.01ポイント、標準偏差は2.69ポイント、分散は7.30ポイント、最大値は9.10ポイントおよび最小値は1.54ポイントである。**全体のデータ分析**では、平均値は5.06ポイント、標準偏差は2.50ポイント、分散は6.36ポイント、最大値は8.98ポイントおよび最小値は1.64ポイントである。**男女生徒間の相違点**では、平均値は0.10ポイント、標準偏差は-0.37ポイント、分散は-1.88ポイント、最大値は-0.24ポイントおよび最小値は0.21ポイントである。男子と女子生徒間の意識関係は、決定係数と回帰方程式によって明らかにされた。

B. 各ポイントの経年変化と傾向分析

男子生徒・女子生徒や男女生徒の**平均値の比較**において、調査年度が経過するにつれ、共に、**増大する項目**は、02.学校机に傷・04.親には反抗・16.蓄財に努力・21.内緒で交際および22.犠牲と幸福の5項目である。また、**減少する項目**は、03.正生活計画・05.日本国へ愛・12.結婚と純潔・15.多数決に従・18.家族と話合および23.先生に相談の6項目である。男女生徒の**ポイントの格差**を比較した。調査年度が経過するにつれ、**増大する項目**は、04.親には反抗・06.税金を少納および13.平和無関心の3項目である。また、**減少する項目**は、05.日本国へ愛と15.多数決に従の2項目である。

C. 平均値・標準偏差・分散における経年変化と傾向

平均値の経年変化と傾向では、調査年度が経過するにつれ、男女生徒の平均値は、徐々に減少の傾向である。標準偏差と分散は0.07と0.00ポイントである。善いと思われる意識が悪いと思われる意識に下降している。下降の度合いとして1ポイントを減少するには100年もかかることが理解できる。**最大値の経年変化と傾向**でも、調査年度が経過するにつれ、男女生徒の平均値は、徐々に減少の傾向である。標準偏差と分散は0.09と0.01ポイントである。善いと思われる意識が悪いと思われる意識に下降している。下降の度合いとして1ポイントを減少するには100年もかかることが理解できる。男子よりも女子の方が大きい。**最小値の経年変化と傾向**では、調査年度が経過するにつれ、男女生徒の平均値は、徐々に増大の傾向である。標準偏差と分散は0.14と0.02ポイントである。悪いと思われる意識が良いと思われる意識に上昇している。上昇の度合いとして1ポイントを上昇するには100年もかかることが理解できる。

標準偏差の経年変化と傾向では、男子生徒の平均値は、1957年の2.77ポイントから1990年の2.02ポイントまでに徐々に減少の傾向である。女子生徒の平均値は、男子よりも大きく1957年の3.20ポイントから1990年の2.37ポイントまでに徐々に減少の傾向である。男子よりも女子のバラツキが大きい。**分散の経年変化と傾向**では、男子生徒の平均値は、1957年の7.68ポイントから1990年の4.07ポイントまでに徐々に減少の傾向である。女子生徒の平均値は、男子よりも大きく1957年の10.21ポイントから1990年の5.62ポイントまでに徐々に減少の

傾向である。男子よりも女子の方が大きいバラツキである⁹⁾。

謝 辞

この研究は、大阪府高等学校社会科研究会・社会部会が調査したデータを基礎として作成した成果である。この資料調査では、府社研の関係各位に多大なご協力をいただいたことを感謝します。また、2000年の調査に向けて、文部省初等中等教育局高等学校課の大和淳先生、ならびに総理府総務庁青少年対策本部調査担当参事官鈴木明人先生にご助言・ご指導をいただきましたことに、感謝の意を表し御礼申し上げます。

参 考 文 献

- 1) 「高校生の道徳意識に関する調査報告（大阪府下の高校生を対象とする）－1969年データ－」大阪府高等学校社会科研究会・社会部会（1971）
- 2) 「高校生の道徳意識に関する調査報告（大阪府下の高校生を対象とする）－1980年データ・'57・'69との比較」大阪府高等学校社会科研究会・社会部会（1981）
- 3) 「現代高校生の意識調査報告（大阪府下の高校生を対象とする）－1990年－」大阪府高等学校社会科研究会・社会部会（1991）
- 4) 沢 勲 『THE FORTRAN』 弘文社 1988年
- 5) 沢勲他「HITAC基本統計システムにおける重回帰プログラムとデータスクリーニング」
大阪経済法科大学論集 46（1991） p.1～13
- 6) 沢勲他「HITAC基本統計システムにおける重回帰プログラムの統計量」
大阪経済法科大学論集 47（1992） p.1～18
- 7) 荒田祥嗣（「青年と自己探求」における「高校生の意識調査」を活用した授業の展開について） 文部省・大阪府教育委員会主催の昭和56年度 北陸・近畿・中国地区の現代社会研修講座要項 1981年9月
- 8) 荒田祥嗣（「現代の青年の心理的・社会的諸問題－現代高校生の道徳意識と価値観－」大阪府教育委員会の府立高等学校「現代社会」指導の手引 p.29－36 1982年3月
- 9) 荒田祥嗣 シンポジウム「女性問題と学校教育」 平成3年度府立学校教職経験者研修講座（Ⅰ）第5回 1991年8月

